

ピースボート地球大学

2015年夏期 報告書

「貧困をなくし、持続可能な世界をつくる」



目次

2015年夏期ピースボート地球大学 概要	1
STEP1 乗船前 ～情報を知識へ～	2
STEP2 地球一周 ～知識を経験へ～	3
ナビゲーター	4
ユニット1 フィリピンで学ぶ、貧困からの脱却と地域づくり	5
ユニット2 旧ユーゴで学ぶ、女性たちがつくる紛争後の社会	8
ユニット3 ペルーで考える、『働く子ども』と『人権』	11
STEP3 下船後 ～経験を行動へ～	14
プログラム全体の成果と課題	14

地球大学とは

ピースボート地球大学は、「地球一周の船旅」というユニークな学びの場を活用し、乗船前・下船後の活動を含めた約半年間のカリキュラムを組んだ「アクティビストを育てる」ための平和教育プログラムです。訪れる各地域の現場体験と洋上での講義などを通して地球規模の課題に対する理解を深め、それらを自分の問題として考える多角的な視点を養っていきます。プログラム修了者は主体的に平和な社会を築く当事者として必要な知識、経験、行動力を身につけ、NGO・NPOや国際機関、地域活動、ソーシャルビジネスなど様々な分野において活躍することが期待されています。

※ピースボート地球大学は、NGOピースボートが企画・実施する教育プログラムです。学校教育法上で定められた正規の大学ではありません。

2015 年夏期 ピースボート地球大学 概要

全体テーマ

「貧困をなくし、持続可能な世界をつくる」

目的と概要

2015 年は、2000 年に採択された国連ミレニアム開発目標（MDGs）の達成期限を迎える年であり、ポスト 2015 開発目標・持続可能な開発目標（SDGs）への過渡期として重要な年です。また、11 月には気候変動に関する世界会議 COP21 も開催されました。「持続可能性」というコンセプトは、私たちの暮らしのレベルでも、政治や世界経済のレベルでも、ますます重要性を増しています。貧困、紛争、環境破壊などの地球規模の課題に対して市民として何ができるのか。政府や国連は様々な対策をすすめています。一方では地域の住民が主体となったボトムアップの取り組みがおこなわれています。第 88 回ピースボート地球一周の船旅で実施する地球大学プログラムでは、「貧困」「紛争」「人権」をキーワードに、3つの地域とテーマに沿って、地域市民や NGO の取り組みから、持続可能な社会の実現に向けて私たちに何ができるかを考えました。

受講生

28 名

年齢：19～29 歳（平均年齢：24 歳）

うち現役の大学生は 11 名（*）



“（今回の旅で挑戦したいことは）地球大学でしっかり学びたいです。私は血を見るようなことが苦手で、そうした描写のある映画すら避けてきました。[中略] 東日本大震災の後、ボランティアで2週間ほど宮城県石巻市に行きました。地元の方々が、思い出すことすら辛いはずなのに、被災時のことを何度も話してくれたんです。「若い人たちには自分たちのような思いをして欲しくない。だから話して伝えるんだ」と。こうした体験が改めてちゃんと学びたいと思うきっかけになりました。”
高木美希さん/28 歳

* 地球大学参加により単位認定を得た者は 1 名（恵泉女学園大学 人文学歴史文化学科 取得単位：2 単位）

STEP 1 乗船前 ～情報を知識へ～

期間 2015 年 6 月～8 月

事前課題

各ユニットのテーマに関する基礎知識を身につけるため、以下の書籍や視聴覚資料を必修としたほか、多数の図書を推薦とし、ユニットごとの事前課題に取り組みました。

- ・『世界から貧しさをなくす 30 の方法』
(田中優・檜田秀樹・マエキタミヤコ編／合同出版／2006 年)
- ・『絶対貧困—世界リアル貧困学講義』
(石井光太著／新潮社／2011 年)
- ・『そうだったのか！現代史』 (池上彰著／ホーム社／2000 年)
- ・『NHK for School 10 min.ボックス第 20 回 持続可能な社会』 (NHK 制作／2013 年)
- ・『ボスニア内戦 民族紛争の真実』 (APF 通信社制作／1999 年)
- ・『働く子どもたち物語 ペルー』 (NGO Cussi Punku 制作／2009 年)



▲合宿二日目、「日雇い労働者の街」と呼ばれる東京の山谷（さんや）を訪問。歴史は江戸時代にさかのぼる。

出航前オリエンテーション合宿

7 月 18 日～20 日

ピースボートセンターとうきょうにて

今期地球大学のテーマのひとつである「貧困」についての基礎知識を身につけ、また、チームワークづくりを目的とした二泊三日の合宿を、東京・新宿を中心に路上生活者・生活困窮者支援をおこなっている団体「NPO 自立生活サポートセンター・もやい」と「新宿ごはんプラス」の受け入れのもとおこないました。日本国内の貧困問題に焦点をあて、NPO の支援活動に参加し、貧困に陥りやすい日本の社会構造について学ぶ数々のワークショップやアクティビティをおこないました。それまで目を向けること

のなかったホームレスという問題に向き合い、問題の根本的な解決に向けて必要なことを考えるきっかけとなるとともに、様々な社会問題に対して「知ること」や「行動すること」の大切さを学ぶ機会となりました。▶合宿についての詳細は[こちら\(peaceboat.org/8761.html\)](http://peaceboat.org/8761.html)

定例勉強会

ピースボートセンターとうきょうで毎週水曜日
に開催される勉強会に、地球大学生も参加が
推奨されました。▶[知ることは楽しい!!ピースボートイベント\(peaceboat.org/event.html\)](http://peaceboat.org/event.html)

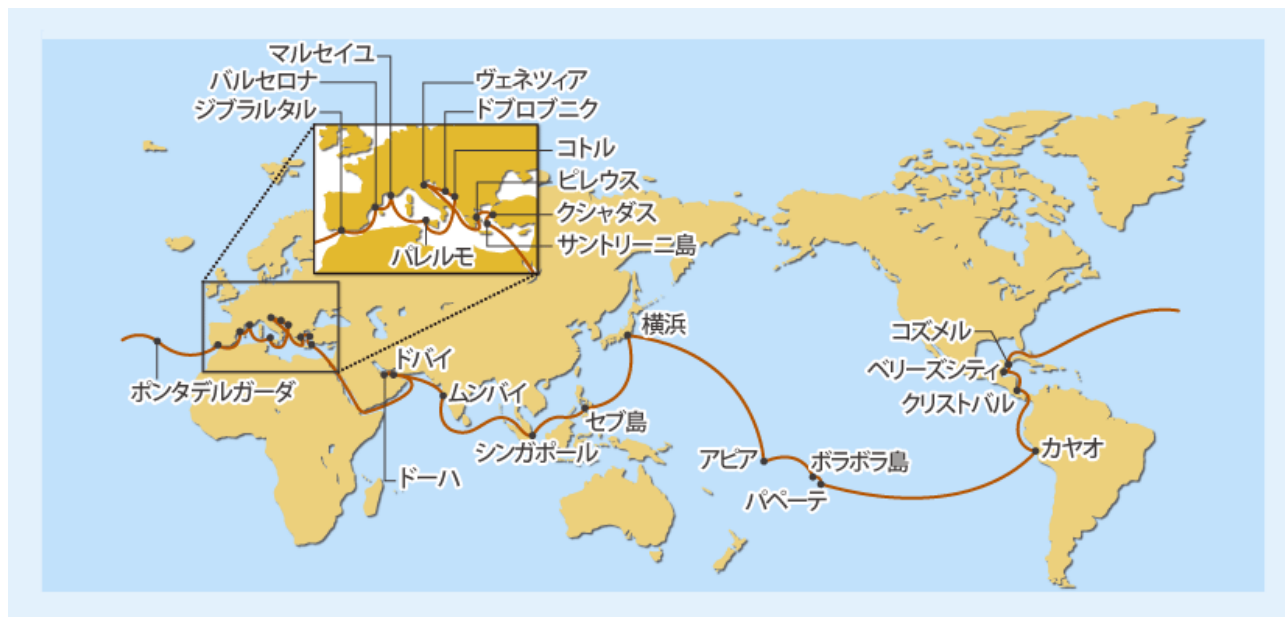
テーマ例：

学生がつくる民主主義／旧ユーゴスラビア紛争～誤った「リーダーシップ」がもたらすもの～／ビッグイシュー日本が考える「ホームレス問題」とは／子どもが主役の地域づくり～ペルーの子どもたちの今と貧困脱却への道～／徹底解説 安保法制と集団的自衛権 ほか

STEP 2 地球一周 ～知識を経験～

第 88 回ピースボート地球一周の船旅に乗船

期間 2015 年 8 月 21 日～2015 年 12 月 6 日 (108 日間)



地球大学プログラムの構成

エクスポージャー [現場実習] 計 3 回

各ユニットにつきひとつ、寄港地でのオプションツアーに必修参加し、現場を自分の目で見て体験します。

洋上ゼミ 90 分 x 約 40 回

各ユニットで取り上げる問題、エクスポージャーで見聞したことを多角的に分析し理解を深めます。参加者自らが主体的に考える力を養えるようグループワークやディスカッション、ワークショップを始めとした様々な参加型学習の手法を用います。



▲航海中、ゼミがおこなわれるセミナールームのようす。グループワークとディスカッションを中心に進められる。

GET [グローバル・イングリッシュ/エスパニョール・トレーニング] 60 分 x 30 回

コミュニケーションの道具としての言語を身につけることを目的に、少人数制クラスでレベルに合わせてユニットのテーマに沿った社会問題を扱います。

アクション

地球大学では学んだことを実践し、発信することを大切にしています。ユニットごとにおこなう船内での報告会をはじめ、ワークショップや討論会など様々な企画を主催・参加します。本クルーズでは地球大学生の有志でフィリピンの団体 DAWN への募金キャンペーンをおこないました。

ナビゲーター

国内外からそれぞれのテーマに関する専門家を「ナビゲーター」（進行役）としてプログラムに招き、講座や洋上ゼミ、ツアーの受け入れなどをおこなっていただきました。



カルメリータ・ヌキさん NGO DAWN 代表

フィリピン出身。NGO「DAWN (Development Action for Women Network/女性の自立のためのネットワーク)」は、出稼ぎ労働者として日本に渡るフィリピン女性と日比国際児の人権保護を訴えながら、女性たちの社会的自立、生活向上のための支援をおこなっている。DAWN の子どもたちで構成される「劇団あけぼの」は、毎年来日し、日本公演ツアーをおこないながらそれぞれの父親を捜している。 ▶DAWN ウェブサイト：www.dawnphil.org



ヤスナ・バステイチさん ジャーナリスト

ボスニア・ヘルツェゴビナのサラエボ出身。ボスニア戦争勃発後、戦争難民として避難し、現在スイスのチューリッヒ在住。ジャーナリストとして、近年のソーシャルメディアを駆使した市民運動、エジプト革命やアラブの春なども取材しており、アラブ諸国の変動を詳細に追っている。また、ピースボートのインターナショナル・スチューデントプログラムや、中東初の非核武装地帯を確立するための市民活動を含む、平和構築プロジェクトのコーディネーターも務めている。



義井豊さん 写真家・NGO Cussi Punku 代表

ペルー・リマ在住。ヨーロッパ、アメリカ大陸放浪の後、1982年にリマに移住してからは古代アンデス文明に傾倒。考古遺物撮影、博物館の収藏品撮影などを専門とする。これまで、アンデス文明を日本に紹介する展覧会や、日本各地の博物館などで開催されている「インカ帝国展」をコーディネート。写真家として活躍するかたわら、ペルーで働く子どもたちを支援するNGO「Cussi Punku」の代表も務める。

▶NGO Cussi Punku ウェブサイト：cussipunku.uijin.com

関連水先案内人・プロジェクト

ネナド・フィッシャーさん（旧ユーゴ国際戦争犯罪法廷[ICTY]調査員・哲学者）／リサ・サリバンさん（中南米スペシャリスト）／山下泰昭さん（被爆者）／ジャネット・キスペさん（大道芸人・パフォーマー）／伊高浩昭さん（ジャーナリスト）／テンダーさん（ヨホホ研究所主宰）／[地球大学特別プログラム](#)／[アジア防災ユーストレーニング](#)／[チュービンゲン学生プログラム](#)／[イラン学生プログラム](#)

ユニット1 フィリピンで学ぶ、貧困からの脱却と地域づくり

ユニット1 概要と目的

国民の約8割が低所得層を占めるというフィリピンでは、国が経済成長に沸く一方、その成長から取り残され、貧困の中に暮らす人がたくさんいます。本ユニットでは、世界的に広がる今日の貧富の格差と貧困問題の構造について学ぶとともに、フィリピンの市民団体のとりくみから、地域住民による主体的な活動の重要性や市民社会の役割を学びました。



▲エクスポージャーで訪れたマニラ市内の地区のひとつ、ダガ・ダガタン地区。洪水が起こるたびに水没の危機にさらされてしまう。

区間 横浜～ムンバイ（8月21日～9月7日）

エクスポージャー前はチームワークや話し合いの基盤づくりに集中し、エクスポージャー後のゼミではより深く貧困問題の構造と市民社会の役割について知識を深めていきました。ナビゲーターのカルメリータ・ヌキさんとのゼミでは、出稼ぎ問題を始めたフィリピンと日本の関係、出稼ぎと貧困問題との関連性などについても取り上げました。

◇ ゼミ 90分×9回／必修講座 75分×3回／その他ワークショップなど 4回

日数	日付	寄港地	ゼミ・講座	内容	ナビゲーター
1	8月21日	横浜			
2	8月22日		ゼミ1	地球大学オリエンテーション	
3	8月23日		ゼミ2 講座1	持続可能な社会を想像する フィリピン・バブ～出稼ぎにくる女性たち	
4	8月24日		報告会	合宿報告会	
5	8月25日		ゼミ3 講座2	ユニット1エクスポージャー準備会 フィリピンの歩き方	
6	8月26日	セブ島・フィリピン			
7	8月27日	セブ島・フィリピン			
8	8月28日				
9	8月29日			ユニット1エクスポージャー	カルメリータ ・ヌキさん
10	8月30日				
11	8月31日	シンガポール			
12	9月1日		ゼミ4	エクスポージャーふりかえり（1）	
13	9月2日		ゼミ5	エクスポージャーふりかえり（2）	
14	9月3日		ゼミ6	貧困をつくりだす世界経済のしくみ	
15	9月4日		講座3	お父さんに逢いたい～日比国際児～	
16	9月5日		ゼミ7	私たちの生活と貧困問題	
17	9月6日		ゼミ8	貧困問題の解決に向けた市民社会の役割	
18	9月7日		ゼミ9 報告会	ユニット1まとめ・プログラムの評価 ユニット1エクスポージャー報告会	
19	9月8日	ムンバイ・インド			

エクスポージャー

8月27日～31日（4泊5日）

フィリピンの首都マニラにて、環境改善、地域づくり、さまざまな社会的弱者の権利保護やエンパワメントなどにとりくむ各団体を訪問し、フィリピンの貧困の現状と、それに対する住民主体の活動について学びました。

行程

8月27日 セブ島からマニラへ移動
Bahay Tuluyan 訪問・団体紹介、生活体験（コミュニティ散策・マーケット見学など）

8月28日 ZOTO 訪問、マニラの特に経済的に貧しい地区をグループに分かれて訪問
地元住民との交流会

8月29日 DAWN 訪問、出稼ぎから帰国した女性と日比国際児との意見交換・交流会

8月30日 ECPAT 訪問・施設見学、児童の性的搾取の問題についてのレクチャー
PGX 訪問、4日間の振り返りワークショップ

8月31日 マニラからシンガポールへ移動、シンガポール市内観光

カウンターパートナー

■ Bahay Tuluyan www.bahaytuluyan.org

ストリートチルドレンの保護をおこなっている団体。ゲストハウスやレストランの運営や子どもたちがつくったフェアトレード商品の販売もおこなっている。

■ ZOTO (Zone One Tondo Organization/トンド地域統一組織) www.facebook.com/smzoto

1970年に設立された地域住民組織。マニラの28の貧困層のコミュニティで活動を展開する646のローカル組織から成り立ち30万人以上の住民を組織している。

■ DAWN www.dawnphil.org

フィリピンの出稼ぎ女性・日比国際児の支援、フェアトレードなどをおこなう団体。

■ ECPAT Philippines www.ecpatphilippines.org

児童の性的搾取・児童買春撲滅に向けて活動する団体。

■ PGX (People's Global Exchange) www.pgx.ph

フィリピン国内でのスタディツアーのコーディネートをおこなうほか、フェアトレードやオーガニック商品の販売・オーガニックレストランの運営もおこなう。



▲ZOTO が活動する地区のひとつ。視察中、住民の方のお話を伺う

評価・成果

4日間のマニラ滞在で経済的な水準の異なる複数の地域を訪れ、圧倒的な貧富の格差と貧困から派生する様々な問題を目の当たりにし衝撃を受けました。一方で、交流を通じてフィリピンの人々の温かさにも触れ、言語の違いを超えて共有できるものがあることにも気づきました。また、住民組織や市民団体の果たす大きな役割と、ボトムアップで貧困解決にとりくむ重要性を学び、本当の豊かさ、そして自分にできることは何かと問う旅の始まりとなりました。

アクション

§ 出航前オリエンテーション合宿 報告会

地球大学プログラムの紹介、そして合宿で学んだ日本の貧困の現状を伝えました。

§ 世界をハッピーにするお買い物

DAWN のフェアトレード商品の紹介と販売をおこないました。

§ ユニット1 報告会

「地大生が見たフィリピンの今」

参加人数：70 名程度

フィリピンで訪問した4つの団体について、パワーポイントと写真を使ってプレゼンをおこない現地を訪れる大切さ、現状を知った者の伝えていく責任を映像とスピーチで呼びかけました。

ユニット1 全体評価

フィリピンの貧困を作り出すのに日本の ODA（政府開発援助）や世界経済のしくみが加担していること、そして自分たちの生活と無関係でないことを知りショックを受けた参加者も少なくありませんでした。世界経済の構造について、ワークショップやゲームを通じて楽しく学べた面もあれば、用語の難しさや歴史の複雑さに理解が追いつかないこともありました。ゼミを進めるスピードや情報量について課題も残りましたが、貧困を個人の能力の問題でなく歴史的・構造的な問題としてとらえられるようになり、先進国に住む消費者として自分と貧困問題との関わりを深く考えることができました。



▲船内でのフェアトレード商品販売



▲「世界が100人の村だったら」ワークショップを通して、船内の一般参加者とともに世界の貧困の現状と解決策を考えた。

“船に乗ってすぐにフィリピンのエクスポージャーに行って、地球大学ではこんな深いところまで入って行くのかと衝撃を受けた。事前に勉強し準備することの大切さを感じた。”

北侑高さん／20歳

“「無知は罪」だと思った。自分の生活が誰かを苦しめていると知ることがなかった。地球大学では知りたくないことまで知り、知らなければ良かったと思うこともあった。でも知らないことは罪だと知った。知れて良かった。”

松浦達也さん／20歳

ユニット2 旧ユーゴで学ぶ、女性たちがつくる紛争後の社会

ユニット2 概要と目的

1991年から2000年代にかけて5つの戦争が次々と勃発した旧ユーゴスラビア。本ユニットでは、旧ユーゴスラビア紛争という事例を通して、「誰が」「どうやって」戦争を起こすのかを紐解き、特に政治家やメディアの役割、民族主義・国家主義思想などについて学びました。戦後の問題にとりくむ市民活動の事例をとりあげながら、女性や若者の果たす役割について考えました。

区間 ドーハ～ポンタデルガーダ (9月15日～10月13日)

受講生の多くにとって身近ではない「戦争」というテーマについて、まずは体験談やドキュメンタリーからイメージを持ってもらい、レクチャーとワークショップを交えながらゼミを進めました。

◇ ゼミ 90分×13回／必修講座 75分×4回／ドキュメンタリー上映 1回

日数	日付	寄港地	ゼミ・講座	内容	ナビゲーター
1	9月14日	ドーハ・カタール			
2	9月15日		ゼミ1	ヤスナのパーソナルストーリー	
3	9月16日		ゼミ2	旧ユーゴ紛争がもたらしたもの	
4	9月17日		ゼミ3	戦争の歴史的背景と民族主義思想	
			講座1	私は戦争で難民になった	
5	9月18日		ゼミ4	戦争を起こすメディアとプロパガンダ	
6	9月19日		ゼミ5	メディアリテラシー・ワークショップ	
7	9月20日		ゼミ6	旧ユーゴ紛争の終結	
			講座2	メディアと戦争	
8	9月21日			ピースデー	
9	9月22日				
10	9月23日		ゼミ7	若者の非暴力運動の力	
			講座3	過去100年から学んだこと	
11	9月24日	スエズ運河			
12	9月25日		ゼミ8	非暴力の抗議運動ワークショップ	ヤスナ・バステイチさん
13	9月26日	サントリーニ			
14	9月27日	クシャダス・トルコ			
15	9月28日	ピレウス・ギリシャ			
16	9月29日				
17	9月30日		ゼミ9	ネナド・フィッシャーさん Q&A	
18	10月1日	ヴェネツィア・イタリア			
19	10月2日		ゼミ10	ユニット2 エクスポージャー準備会	
20	10月3日	ドブロブニク・クロアチア			
21	10月4日	コトル・モンテネグロ		ユニット2 エクスポージャー	
22	10月5日		ゼミ11	エクスポージャーふりかえり	
			講座4	紛争の世界における国際司法	
23	10月6日	パレルモ・イタリア			
24	10月7日				
25	10月8日	マルセイユ・フランス			
26	10月9日	バルセロナ・スペイン			
27	10月10日				
28	10月11日	ジブラルタル			
29	10月12日		ゼミ12	貧困と戦争のつながりを考える	
30	10月13日		ゼミ13	ユニット2を通して学んだこと	
31	10月14日	ポンタデルガーダ・アゾレス諸島			

エクスポージャー

10月3日～4日 (1泊2日)

ドブロブニク (クロアチア) とコトル (モンテネグロ) にて、女性の職業支援や地位向上のための活動を展開する NGO を訪れ、紛争後の社会づくり、そして男女平等を含めた平和な社会づくりについて学びました。

行程

10月3日 クロアチア独立戦争博物館訪問
DESA にて団体概要レクチャーと
伝統手工芸品ワークショップ体験
旧市街の散策、戦争写真展
バスにてコトルへ移動

10月4日 ANIMA 訪問・意見交換
旧市街散策



▲ドブロブニク包囲開始後に難民として国外に避難した後、DESA の設立当時からボランティアとして関わっているロマナさんのお話を伺う受講生

カウンターパートナー

■ NGO DESA (デシャ) desa-dubrovnik.hr

1991-92 年の戦争で国内避難民・難民となってしまった女性をサポートするため、1993 年に発足した NGO。伝統手工芸品ワークショップなどを通じて経済的・精神的な自立をサポートしている。

■ ANIMA (アニマ) www.animakotor.org

1996 年創立、女性の地位向上と平和教育をおこなう NGO。他の西洋諸国に比べ女性の地位が低いと言われるモンテネグロにおいて、男性優位社会からの脱却、そして暴力のない平和で平等な社会を築くことを使命として活動し、研究や書籍の出版、ワークショップ、街頭デモンストレーションなどもおこなっている。



▲クロアチアの伝統工芸に挑戦

評価・成果

1991 年に包囲攻撃を受けたドブロブニク旧市街は市民主導で復興が進み、見た目には戦争が起きたことなど想像すら難しいかもしれません。エクスポージャーでは、ドブロブニク包囲によって難民となった女性のお話を伺ったり、当時要塞として使われた場所 (現在はクロアチア独立戦争博物館) を訪れ、歴史学者とともに旧市街を歩くことで、過去の戦争をリアリティをもって学ぶことができました。一方、旧ユーゴ紛争の戦場とはならなかったモンテネグロでは、この戦争が同国の経済や民族構成にどのような影響を与えたのか知ることができました。戦争の終結後も人々・社会に残る傷跡の深さと、それにとりくむ市民団体の存在の大切さを学びました。

アクション



▲カードを使いながら紛争の激化と予防のプロセスを考える「紛争予防ワークショップ」のようす

§ ユニット 2 報告会

「Power of "YOU"TH～平和の架け橋はあなた～」

参加人数：100 名程度

旧ユーゴ紛争の概要からプロパガンダの役割、戦後の問題にいたるまで、映像・パワーポイント・寸劇・ワークショップ・歌・展示などを通して伝えました。受講生自身が考えてつくった参加型ワークショップでは、徴兵された兵士の心の葛藤を疑似体験し、心的外傷後ストレス障害（PTSD）などの戦後の心の問題について深く考える機会となりました。

▶詳細は[クルーズレポート](http://www.pbcruise.jp/report/88th/onboard/-power_of_youth-.html)にて (www.pbcruise.jp/report/88th/onboard/-power_of_youth-.html)



ユニット 2 全体評価

「戦争」「旧ユーゴスラビア」というテーマは、ユニット開始時、参加者の多くにとって「遠い過去のできごと」と思われ、ユーゴスラビアの地理や歴史について事前にしっかりと基礎知識をつけること、そして多くの補習が必要だと感じました。ですが、ゼミを重ねるにつれ徐々に自分に関係のあることとして捉えられるようになり、旧ユーゴ紛争の事例から、戦争が起きるしくみ、メディアと戦争の関係を理解し、あらゆるメディアの情報に対する批判的な視点を持つことができるようになりました。また、若者が社会を変えたというセルビアの実例を通して、非暴力の抵抗運動のノウハウ、若者が発揮するリーダーシップの大切さなどを学びました。

“少しずつ民衆の心が戦争へと向かわされるプロセスがよく理解できた。学校では1度も学んでこなかった分野だった。”
鈴木ことみさん／26歳

“戦後の問題はまだ終わっていないのだと感じました。イスラエル・パレスチナ問題も、日本の戦後処理の問題も、旧ユーゴスラビアでも。”
遠山明子さん／24歳

ユニット3 ペルーで考える、『働く子ども』と『人権』

ユニット3 概要と目的

世界では、推定 2 億 4600 万人の子ども（世界中の子どもの 6 人に 1 人）が「児童労働」と呼ばれる「子どもたちの健全な成長を妨げる労働」に従事しているといわれます。彼らの多くは、家庭の経済的な理由のため、生きていくために働かざるをえない状況にあります。国際労働機関を筆頭に、国際社会が「児童労働」の撲滅に向けて取り締まりを厳しくする中、深刻な貧困問題を抱えるペルーでは、働く子どもたち自らが主体となり、彼らの「働く権利」を認め、労働環境の改善と権利の尊重を求める全国運動を展開しています。このユニットでは、ペルーの例から、児童労働の根本的な原因、そして子どもが働くことの意味を問い直し、守られるべき「弱者」としてのみ捉えられがちな子どもの権利について考えました。

区間 ベリーズシティ～パペーテ（10 月 27 日～11 月 17 日）

前半は、ペルーの子どもたちの生きる「日常」を彼らの目線に立って理解できるよう、日本の常識を取り去り、視点を変えていくことをねらいとしてゼミをおこないました。また、議論する力を養うことを目的に、ディベートを取り入れたり、受講生がファシリテーターとなってディスカッションを進めていく練習を重ねました。ユニット後半は、世界で見た問題を日本の問題とつなげて考え、帰国後の行動につながるようアクションプランを立てました。

◇ ゼミ 90 分×15 回／必修講座 75 分×2 回／その他 地球大学生向けの企画 4 回

日数	日付	寄港地	ゼミ・講座	内容	ナビゲーター
1	10 月 26 日	ベリーズシティ・ベリーズ			
2	10 月 27 日		ゼミ 1	義井豊さん紹介	
3	10 月 28 日		ゼミ 2	児童労働の実態と是非	
4	10 月 29 日	クリストバル・パナマ			
5	10 月 30 日	パナマ運河			
6	10 月 31 日		ゼミ 3 講座 1	ペルーの貧困の原因と現状 ペルーの人たちの生活	義井豊さん
7	11 月 1 日		ゼミ 4 講座 2	ラ米での働く子どもたちの取り組み ペルーの子どもたちの世界	
8	11 月 2 日		ゼミ 5	ユニット3 エクスポージャー準備会	
9	11 月 3 日	カヤオ・ペルー		ユニット3 エクスポージャー	
10	11 月 4 日	カヤオ・ペルー			
11	11 月 5 日	カヤオ・ペルー			
12	11 月 6 日	カヤオ・ペルー			
13	11 月 7 日		ゼミ 6	エクスポージャーふりかえり (1)	
14	11 月 8 日		ゼミ 7	エクスポージャーふりかえり (2)	
15	11 月 9 日		ゼミ 8 公開ゼミ	ファシリテーターの役割とは	
16	11 月 10 日				
17	11 月 11 日		ゼミ 9	エクスポージャーふりかえり (3)	
18	11 月 12 日		ゼミ 10	「貧しさ」と「豊かさ」を見直す	
19	11 月 13 日		ゼミ 11	日本の問題 (1) TPP (講師: 伊高浩昭さん)	
20	11 月 14 日		ゼミ 12	日本の問題 (2) 派遣法と大学統廃合 (講師: 伊高浩昭さん)	
21	11 月 15 日		ゼミ 13	世界と日本の 30 年後の未来を描く	
22	11 月 16 日		ゼミ 14	リーダーシップワークショップ	
23	11 月 17 日		ゼミ 15	地球一周ふりかえり	
24	11 月 18 日	パペーテ・タヒチ			

§ エクスポージャー

11月3日～4日 (1泊2日)

ペルー全国で活動を展開する働く子どもたちの団体を訪問し、生活・労働環境の視察と、各団体の「子どもたちによる」「子どもたちのための」取り組みについて学び意見交換をおこないました。

行程

11月3日 MANTHOC のリマの活動拠点である「イエルバテロスの家」訪問
子どもたちの生活体験、施設見学と文化交流

11月4日 INFANT オフィスにて MNNATSOP・MANTHOC 全国代表の若者とのディスカッション
ビジャ・エルサルバドル地区訪問、子どもたち主体の活動への参加・文化交流
カウンターパートナーを招いて船内見学



▲イエルバテロスの家に通う子どもたちとのケーキ売り体験のようす。売り上げは一部材料費として団体に還元し、残りは子どもたちの収入となる。

カウンターパートナー

■ MANTHOC (マントック) manthoc.org.pe

キリスト教、働く子どもたち、および労働者の子弟たちによる運動。1976年に設立された働く子どもたちの権利保護活動をおこなう団体。教育、職業訓練、生活支援、学校運営、フェアトレード製品の販売など活動は多岐に渡る。

■ MNNATSOP (ナソップ) mnnatsop-natsperu.blogspot.jp

ペルー働く子ども・若者全国運動。1996年に創立された、働く子どもたちによって運営・組織される全国運動。労働環境改善のため行政に働きかけたり政治提言をおこなっている。

■ INFANT (インファント) www.infant.org.pe

働く子ども・青少年の育成機関。ナソップと並んで活動をおこなう教育機関で、子どもの権利についてのワークショップなどを実施するほか、日本の永山則夫基金の援助を受け奨学金の提供をしている。

カウンターパートナーの言葉

“ピースボートで世界を回っている日本の若者たちとの文化交流はとても楽しく、大切な経験でした。[中略] 働く子どもの運動に関わっているペルーの若者たちは、人生経験を共有することができるすべての機会を活用し、誰もが社会を変革させるために価値をもっているということを見出してくれる可能性を信じています。それは働いている子どもであろうと、若者であろうと、または大人、年配の方、お金持ち、貧乏、黒人、白人、カトリック教徒、仏教徒であろうと、誰もが社会変革を起こすことができるのです。”

リサンドロ・ゲバラさん/INFANT メンバー/25 歳



▲ビジャ・エルサルバドル地区にて、地域の子どもたちとの文化交流会。まずは簡単なダンスでアイスブレイク。



評価・成果

一市民であるということを強く自覚し、主体的に学びながら働いている子どもたちの生活体験や若者との意見交換が、「児童労働」というもの、「子ども」の概念、豊かさと貧しさに対する考え方について大きく見直す機会となりました。ペルーと日本という、遠く離れた国同士の共通点や相違点についても意見を交わし、ともに人権が守られる社会をつくっていこうという連帯意識が生まれました。また、2日目のビジャ・エルサルバドル地区訪問の様子はペルーの全国日刊紙「Trome」にも大きく掲載されました（2015年11月10日付け、左の写真）。

アクション

§ 地球大学オープンゼミ ～ペルーの働く子どもたち～

参加人数：70名程度

受講生がファシリテーター・書記となり、参加者とともに「児童労働に対するイメージ」や「学校と労働の両立の是非」、日本国内の児童労働の実態や子どもの教育など活発な意見交換をおこないました。▶詳細は[クルーズレポート](http://www.pbcrui.se/report/88th/onboard/post_73.html)にて(www.pbcrui.se/report/88th/onboard/post_73.html)

§ 地球大学最終報告会

NO ACTION NO PEACE ～平和の種を今、ここから～

参加人数：300名程度

横浜へ向かう太平洋区間では受講生それぞれが「卒業制作」として、地球一周を通して学んだこと、下船後のアクションプランなどを、スピーチや絵本、劇、歌、映像、宣言文などにまとめました。新しいNGOの構想、政治参加への意思表示、エクスポートで感じたことなど、内容も多岐に渡る発表となりました。さらに、フィリピンのNGO DAWNに向けて募金活動をおこない、約9万円相当の寄付を集めました。この募金は日比国際児のリーダーシップ育成プロジェクトなどに使われる予定です。



ユニット3 全体評価・成果

「児童労働」というテーマを出発点に、教育、労働、人権、子どもの権利とあるべき姿、市民とは誰を指すのか、主体的に生きるとはどういうことか、様々なテーマへ広がりを見せたユニットでした。明確な答えがない分、戸惑い悩む受講生も多かったのですが、それぞれが自分なりの価値観を見出すための時間となりました。ユニット3の後半にかけては、地球一周の中で培ってきた批判的思考と客観的な視点をもって日本社会の状況を分析し、意見を述べられるようになりました。

STEP 3 下船後 ～経験を行動へ～

地球大学報告会

地球大学生による報告会を、2016年1月27日にピースボートセンターとうきょうにて、2月27日にピースボートセンターおおさかにて、開催する予定です。

インターン・ボランティア活動など

2015年12月19日～25日にかけて、ピースボートセンターいしのまきが実施する宮城県石巻市でのボランティア「[イマ、ココプロジェクト](#)」に8名が参加しました。また、2016年1月現在、3名がピースボートスタッフとなり、1名がピースボート事務局インターンとして働いています。

プログラム全体の成果と課題

★グローバルな視点と地球市民としての自覚

さまざまなケーススタディを通して貧困問題と紛争・平和構築・経済・雇用などの問題の関連性を学び、グローバルな視点で持続可能性について考えることができるようになりました。問題解決に向けて行動を起こし社会をつくっていくべきは市民一人ひとりであるという意識を持ちました。

★異文化コミュニケーション能力

各寄港地での交流や、船内での国際奨学生との交流を通じて、様々な言語・文化・社会的背景を持つ人たちと、対等にコミュニケーションがとれるようになりました。

★メディアリテラシー

プロパガンダの性質と構造を理解し、ある一つの情報源からの情報を鵜呑みにせず、書き手の意図を考え批判的に情報を吟味する力がつきました。また、ソーシャルメディアの強みと弊害を理解した上で今後の活用のしかたについて考えるようになりました。

★リーダーシップと主体性

報告会の企画・宣伝などを受講生自身がおこなったことに加え、数々のピースボート企画や大規模なイベントの運営などに積極的に関わる中で主体性を培いました。

★情報発信能力と表現力、ファシリテーション能力

人前で話す自信が付き、効果的で創造性あふれるプレゼンテーションができるようになりました。また、多くの人を対象としたワークショップをつくり進行する経験をし、ディスカッションをファシリテートすることができるようになりました。

★その他 評価と課題

- ・様々なバックグラウンドを持つ受講生の多様性を大事にしながらも、共通のテーマに取り組みプログラムの目的を達成するため、日々のカウンセリングや補講が非常に大事な要素となりました。
- ・議論の質を高め運営をよりスムーズにするためには、テーマに関する基礎知識の底上げと、議論できるだけ十分な情報を受講生が事前に得る必要があります。インターネットなどの使用が限られる船内では特に、書籍などの資料の拡充が課題です。
- ・クルーズ中、他の船内企画に参加するため一時的に地球大学の出席率が下がることもありました。他の船内プロジェクトと共存できるようスケジュールや課題の量を考慮する必要があります。



“地球大学をとって本当に良かった。今まで目をそらしてきた問題への取り組み方、社会問題に対する考え方、実践する大切さを学びました。今、学ぶことができ本当に良かったです。”

澤田希望さん／26歳

ピースボート地球大学に関するお問い合わせ
ピースボート事務局（地球大学担当：寺地亜美）
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-13-1-2F
TEL: 03-3363-7561
Email: univ@peaceboat.gr.jp